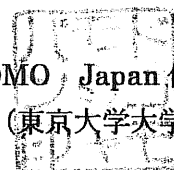


2008年10月24日

東京女子大学理事長  
原田 明夫 様

DOCOMOMO Japan 代表  
鈴木博之 (東京大学大学院教授)



### 東京女子大学旧体育館の耐震診断書の送付について

拝啓 仲秋の候、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

近年、社会・教育環境の変化にともない大学間では競争の時代に入っているように拝察いたします。貴東京女子大学におきましては、更に学生数の増加などによりキャンパス再整備計画がなされ、既に第一期工事が進捗されていることを承知しております。

このキャンパスは創設者新渡戸稲造先生や安井てつ先生の建学の精神に基づいて建築家アントニン・レーモンドによってキャンパス計画がなされ、9棟の建築群(順次建てられた)によって女子大学教育がスタートしました。私ども DOCOMOMO Japan では、今回の整備計画により解体されると公表された東寮と旧体育館を失うことは、日本の建築史を考える上でも大きな損失であると同時に、本キャンパスの魅力はこれらのレーモンド建築群を根幹としており、次代を背負う女子大学生に建築の存在とその魅力を伝え、更にここで学んだ喜びを伝え続けてほしいと願って、キャンパス再編の検討をしてほしい旨要望書を提出させていただきました。

残念ながら東寮が解体されて新校舎の建設工事がなされておりますが、幸い旧体育館はこの建築には抵触しておりません。しかし主として下記理由により、存続させることは出来ないと漏れ聞いております。

- (1) 旧体育館は耐震上危険であり、改修するためには膨大な費用が発生して対応し難い。
- (2) 学生が集い語り合う場が必要と考え、解体した後を広場(防災も考慮)として整備する。

DOCOMOMO Japan ではこの耐震判断に疑念を持ち、会員の構造設計家松嶋哲英氏に要請し、レーモンド事務所より図面を借用して耐震診断を行いました。この診断には岡田章日本大学教授(構造学)の協力を得ております。コンクリート強度などのデータが得られませんので、建設時代当時の通常の強度の約半分で入力しましたが、充分安全であるとの結果が出ました。

本旧体育館は低層であり、両翼の壁による2階建て部分が全体を支えており、通常メンテナンス(鉄部の防錆処理や、壁面などの塗装をする)だけで安全に使用できます。

構造検討にともなってコンクリートの「中性化」の問題が提起されることがあるのですが、基本的にはコンクリート強度が落ちるということではありません。外壁や内壁の仕上がり状態、また自然環境との関連によって中性化の進捗が変わります。建築界におきましては中性化に関して様々な研究がなされており、懸念されるケースにおいては改修実施された例もあります。

いずれにしてもコンクリートのコア抜きなど行い、或いは既に貴校によってデータがとられているのでしたら公開をしていただき、本耐震診断書を基に検討されることを切に望みます。

阪神大震災をはじめ幾多の地震によって安全性が大きな課題になっております。貴キャンパスに於きましても建築関係者から様々な意見が出されていると拝察しますが、同じ建築に携わる者として短絡的に安全性に疑念があると具申することに危惧を感じます。貴校には旧体育館だけではなく、他に7棟のレイモンドの設計による建築があります。構造や用途もそれぞれ異なりますが同じ課題を持っており旧体育館だけが突出しているのではないと存じます。

上記(2)の課題、学生交流の場は、現在の旧体育館の使い方を再検討することによって充分可能ではないでしょうか。両翼には暖炉のある部屋もありますし体育教育と共に、他校にはない大きな役割を果たし得ると信じるものです。防災の安全性については、この体育館が存続することを前提として再検討されることを願うものです。それによって更に豊かなキャンパス再編がなし得ると思います。

理事長として学生の安全やより良いキャンパス構成に尽力されることに敬意を表します。理事長は建築専門家からの具申を受けてキャンパスのあり方をご検討されていると拝察しますが、貴校に関わる専門家には、このキャンパスの魅力の本質を理解して理事長をはじめ学校運営関係者をサポートしてほしいと心より願うものです。

私ども DOCOMOMO Japan では、本耐震診断書を基に、旧体育館のあり方について建築の専門家と言う立場で助言させていただく用意がございますことを改めて申し添えます。

敬具